



オーガニックとは？

オーガニック農法(無農薬有機農法)とは、農業と食品生産において、合成化学物質やその他の不自然な介入物に依存せずに行われる、環境のことを考慮した農法のことです。それ故、オーガニック食品は、伝統的な農業のやり方と現代的な技術の両者を利用したオーガニック農場にて生産されています。

害虫退治のために合成の農薬を使用するのではなく、様々な種類の作物を植えたり、輪作、自然で生物的な環境にやさしい薬の使用、自然のエコシステムの保護などによって、害虫による被害を防いでいるのです。つまり、健康の維持に疑問視される、人工的な農薬、除草剤、ホルモン剤、生育促進剤などの使用はまったく行われません。

自然で予防的な健康管理(病気になってから対処する管理に相対して)についての同様の論理は、オーガニック産業がオーガニック食品の生産において禁止しているGMO、遺伝子組み換え有機物質に対しても適用されます。すでに存在する様々な安全かつ認証済みの農法を取り入れることによって、オーガニック農家は天から与えられる自然の恵みをおまかせ受け入れることが大切であると信じています。

オーガニック製法で加工される食品やパーソナルケア製品は、自然で古来からある

原材料を主として、最小限の非農業生産の原材料が使用され、最小限の加工のみが認められているものです。そのため、合成化学物質、人工染料、人工着色料、人工調味料、その他の添加物の使用は認められていません。

では認定とは？

認定プログラムは、オーガニックと名称されるものが、信用できるものであるということを確認するため、BFAによって1980年に開始されました。農業従事者、加工業者、その他生産チェーンに関わる人たちが、オーガニックコミュニティによって設けられた規定と規約を守っていることを確実にするため、独立した基準と、独立した監査チームが必要とされました。

オーストラリアには「オーガニック」という言葉に対しての国内の規定がなく、今後も数年間は状況が変わらないであろうという見解のもと、オーガニックであることを確認するためには、独立機関によって認定され、国内外のオーガニック生産の基準を満たしていることを保証するBFAのようなオーガニック認定機関のロゴの表示を頼りにする方法が使用されています。

認定済でなく、ロゴの表示がみられない場合は、その生産物がオーガニックであるかどうかを保証する術はないのです。

認定には2つのレベルまたはカテゴリーがあります：

“オーガニック”と名をうつ認定証の表示が許可されるまでには、農家は3年以上のオーガニック管理農法を施していなければなりません。オーガニックへの移行中であることを認証する“オーガニックへ移行中”という認定証もあり、12ヶ月以上のオーガニック農法施行後、規定の3年間に満ちるまで使用できます。どちらにしても、いずれかのラベル表示がある食品はオーガニック農法によって生産されたものであるということが保証されます。

誰が管理をしているのでしょうか

BFAはその認定部門を通して、AQIS(オーストラリア検疫サービス)やIFORM(国際オーガニック農業動向連合)、その他海外政府などといった機関によって、国内外において厳しく検査がなされます。オーガニック農法・製法には、代行基準や中途半端な基準はありません。

BFAはその会員によって所有される非営利の団体であるゆえ、オーガニックコミュニティの真の関心が維持され是認されるのを確認できます。

では、どうして認定オーガニック生産品を購入するのでしょうか？

認定オーガニック生産品を購入することによって、私たちの国家、働き者で思慮深い農家の人々の将来に投資していることになるのです。見逃すわけにはいかない未来です。私たちには違いをつくる力があります。持続的農業の未来をサポートするために毎日ひとつできること — それが、認定オーガニック製品を購入することなのです。

もちろんオーガニック製品がもたらす健康への効果も詳しく説明されています。この業界が現在の速度で成長しているのも不思議ではありません。世界の人々は、長い間見逃していたものが何だったのかという認識にめざめはじめたのです。



ナチュラルビューティーの ためのオーガニック化粧品

それ本当に
“ナチュラル”
ですか？

環境中の毒素に関して関心を払う人が多くなるにつれ、より多くの化粧品メーカーが「自然派」、「オーガニック」の流行に乗っているようです。けれど、ラベルに書かれた「天然」、「オーガニック」という言葉は実際何を意味しているのでしょうか？私たちが購入している製品が、天然、オーガニック製品であるという確証はどこにあるのでしょうか？合成化学物質に代わる天然由来の代替品とは？天然のほうが私たちににとって本当にいいものなの？



研究開発取締役 ナレル・チェネリー

私たちの皮膚は身体の中で最も大きな除去機能をもつ器官であり、相互的に働く膜皮です。毒素は発汗によって除去され、皮膚を通して体循環へと吸収される他、体毛の卵胞と脂肪腺（汗腺ではない）から吸収されます。皮膚2.5 cm 平方あたり、65の体毛、100の脂肪腺、650の汗腺が存在します。

化粧品メーカーは、取り扱う製品が肌に浸透する機能があるというような売り文句を使うべきでないと言われています。もし、そのような文句が使用されている場合は、その製品は「薬品」として分類され、もっと厳しい規定によって管理されます。これには良悪があり、良い面は、肌がなにかすばらしい成分によって栄養を補給されるということ、悪い面は、化粧品メーカーが経口摂取の認められていない成分を使用している場合、皮膚を通してその成分が私たちの体内に吸収される可能性があるという点。

“天然”、“オーガニック”とパッケージに書かれた文字の本当の意味は？

化粧品業界ほど、「ナチュラル」や「オーガニック」といった言葉がむやみに乱用される業界はありません。

「天然」という言葉を目にしたときに私た

ちがまず思うのは、おそらく「自然に存在し、形成され、人工的でない」ということでしょう。多くのラベル表示は、合成化学薬品名が羅列され、中には「・・・自然の物質」由来」という文字も見られます。これは消費者を混乱させるもと。ココミドDEA、ヒドロキシスルタイン酸ナトリウムといった化学成分が「パームオイル由来」などと書かれていると、一般の人はこれらの合成化学成分が天然のものだと思ってしまうはず。実際自然成分を使用している製品ももちろんあるでしょうが、結局、化学処理を施されたものは、もはや天然とも純粋ともいえず、何から抽出されるかはあまり意味のない議論となります。

たとえば、ココミドDEA（シャンプーなどに起泡剤として使用される）の製造には、パームオイルに発ガン性物質として知られるジエタノールアミン-DEAの添加が必要となります。するともはや天然どころか、安全性までもが疑問視されるようになります。

「オーガニック」という言葉を見たとき、私たちはたいてい「合成化学物質を使用せずに栽培された」という意味として捉えるでしょう。これは、多くの化粧品メーカーが意図するところの、「オーガニック」と書かれたラベルが一般消費者に与えるイメージと一致するものです。

化粧品メーカーの中には、「オーガニック」を化学的定義（炭素原子を含む化合物を意味する）として不道に使用するものもあるようです。炭素は全ての生物に存在するので、オーガニックをこの種の定義にあてはめると、石油化学製品の防腐剤であるメチルパラベンもオーガニックとなってしまいます。なぜなら、何千年にもわたって腐った木の葉から形成された原油が、この防腐剤の原料として使われているからです。

製品成分として「オーガニック」ハーブを使用と銘打つメーカーが増えています。その他の成分についてはどうなのでしょう。安全性は？ラベル表示に使用される「オーガニック」という用語の使用規制をする機関があるのでは？答えは、ノー。そのような権力をもつ機関は存在しないのが実情なのです。

しかし、「認定オーガニック」という用語については、多くの国際機関によって管理されています。オーストラリアでは、オーストラリアオーガニック認定機関（ACO）が最大規模の団体として知られます。

ラベル表示に認定機関のロゴマークがあるかどうかを見分けるのが、全使用成分が信頼できるオーガニック成分を使用していることを保証する唯一の方法。それ以外は、オーガニックと書かれていてもそれを立証するすべがないので意味がありません。以下、国際的に認められた認証機関のロゴマークの例です。:

